

## 活動報告

### 2019年度開催した文化セミナーについて

表現文化学科 伊藤 信 博

表現文化学科では、2019年度に前期、後期の二度にかけて、文化セミナーを開催しました。前期は、前半にあいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター発酵バイオ技術室の伊藤彰敏、名古屋大学の砂野唯、名城大学の加藤雅士の各先生に来ていただき、飲食文化・発酵文化について、講義をしていただきました。

さらに、後半は、文化庁文化財第一課工芸技術部門の生田ゆき、ストラスブール大学日本語学科エヴリヌ・オドリの各先生に紙の文化と日本語を学ぶフランス人学生の学びのあり方を講義していただきました。

後期は「室町文学と文化の魅力」と題し、国文学研究資料館に所属した経験のある、徳田和夫、佐々木孝浩、現職の国文学研究資料館教員である恋田知子、小林健二、ダヴァン・ディディエの各先生方に、室町時代を対象とした最先端文化研究を紹介していただきました。



セミナーの様子

このように文化セミナーを開催したのは、国際コミュニケーション学部の学生に室町から派生した飲食、文化や絵画表現、芸能、出版文化、衣服文化が江戸にかけて継承され、発展し、現代に何らかの形でつながっていることやそのような文化を日本研究として学ぶ外国人学生が沢山いることを知ってほしいと思ったからです。

室町・江戸初期をセミナーの中心にしているのもこのセミナーの特徴です。この時代は、

中世の日本と比べ、日本語表現法や絵画表現法が大きく変わり、現代の表現と近い形に変化していきます。そこで、椋山女学園大学歴史文化館で、この時代の作品の展示会「かわいい絵巻・絵入り本」



室町時代のお米で再現した「きんとん餅」生活科学部学生作

も行い、学生の理解を深めていただけるように工夫もしましたし、「絵入り本国際研究集会」

---

も大学で開催しました。

また、近代・近世につながる文学、芸能や文化が多様に発展したにも関わらず、室町時代を学ぶ研究者や紹介する書籍も少ないのが現状です。数多くの版本が出版されているにも関わらず、現代語で紹介する本も少ないのです。そして、ポルトガル船が日本にやってきて、西欧との接点もこの時代に生まれます。

そこで、今後は、こうした室町文学・文化の魅力をさらに国際コミュニケーション学部の学生に伝えていくような努力を続けて行きたいと考え、来年度もセミナーや展示会を継続していこうと思っています。その中でも、西欧との接触から、日本が世界の中の日本を意識し、その中で生まれた文化を特に強調していきたいと、現在生活科学部の学生とも合同で、当時のお菓子であるカステラ、ポーロ、カルメラ、金平糖などを当時の作り方で再現しようとも考えています。